公開シンポジュウム

指標生物 —— その可能性と限界

指標生物は，最近，改めて注目を集めています。けれども，その指標生物の実態については，まだ解明されていない点が，多く残っています。このシンポジュウムでは，いくつかの実例を通じて指標生物が，実際には，何ができるのか，その可能性と限界について，考えてみたいと思います。

日　時 ： 昭和61年６月１日（日）
午前10時半～午後３時半

場　所 ： 大阪市立自然史博物館講堂

主　催 ： 関西自然保護機構

…… プ ロ グ ラ ム ……

1. 主旨説明と問題提起
京都大学理学部　村上興正 氏
2. 植物における指標生物　―タンポポを中心に―
京都大学教養部　堀田満 氏
3. 海洋における生物指標　―ウニをテーマにして―
同志社大学工学部　小林直正 氏
4. 水生昆虫における指標生物
淡水生物研究所　森下郁子 氏
5. 鳥類における指標生物
大阪市立大学理学部　山岸哲 氏
6. 珪藻群集による河川の有機汚濁の数量評価
奈良女子大学理学部　渡辺仁治 氏